

2025年3月4日

各 位

会社名 クックビズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 藪ノ 賢次
(コード番号：6558 東証グロース)
問い合わせ先 執行役員 コーポレート本部
エグゼクティブマネージャー 餌取 達彦
(TEL. 06-7777-2133)

第17期定時株主総会 質疑応答要旨の公開のお知らせ

2025年2月27日に開催いたしました、第17期定時株主総会の質疑応答について、要旨を公開いたします。

記

質問1

17期については費用逡減に努めたものの、利益水準は厳しい結果であった。その背景と今後の戦略について聞かせてほしい。

また、近頃の人材紹介ビジネスにおいては、定着人材に対しても転職を促す流れを感じる。さらに、人事領域のみならず店舗運営などと合わせた飲食店経営における複合的なサービスを提供する企業も見受けられる。人材ビジネスの変容と複合的なサービス提供に関する考え方を聞かせてほしい。

回答（回答者：代表取締役社長 藪ノ）

17期の業績について、第一四半期は良好であったものの、4月に実施したシステムリニューアルにより生産性が一部停滞した。当初、業績停滞は内部要因のみであると見立てていたが、その後の分析により、コロナ禍の戻り相場の一巡やブルーワーカー領域における競合参入による外部環境の変化が主な要因であることがわかった。その他、投資有価証券に関する特別損失の計上など、一時的な要因もあった。ただし、ブルーカラーを含めたマーケットの拡大は当社にも追い風と捉えており、今期は、外部環境の変化を加味した事業計画を策定した。まずは事業の蓋然性を高めることに注力し、来期以降は、以前の営業利益率に戻せるように取り組みたい。

また、ホワイトカラーの領域では一生涯同じ企業で勤め上げる人材が多い。そのため、トレンドはホワイトカラー人材における労働力の流動化であり、大手の人材会社はここに注力している。他方、飲食業界は従来から離職率が高い産業であり、キャリアパスを描くことができるマッチングを実施していく。複合的なサービス提供については、2023年にシフト管理サービス「CAST」をM&Aにより取得。当社は食産業における川上から川下まで、顧客への価値を提供していく。今後も良いサービスがあれば、積極的なM&Aを検討し、既存サービスのバリューアップを図りたい。

質問内容2

連結子会社であるワールドインワーカー社について、昨今の経営状況を伺いたい。また、特に地方においては後継者不足の課題が深刻な問題となっている。この点に対する見解も聞かせてほしい。

回答内容（回答者：代表取締役社長 藪ノ）

ワールドインワーカー社は当社グループにとって重要な子会社。人材不足に対して、特定技能人材の活用は一つの解決策になりうる。1年前は売上も苦戦していたが、この半年で手ごたえを感じている。特定技能人材は日本人とは異なり、言語能力やコミュニケーション力

が定着の鍵となる。各人材のレベルに合わせ、マッチングしていくことが重要。同社の戦略は海外人材の発掘ではなく、国内において就職・転職ニーズがある特定技能人材がメインのターゲット。今後もマーケティング手法の確立を行うとともに、売上の拡大に努めたい。

また、地方における後継者不在の課題については、きゅういち社の事例のように、M&Aによってオーナーシップを取って、支援を実施していく。特に地方のオーナー会社は、事業計画がないことが多く、経営者の手腕に大きく依存するケースが見受けられる。経営支援を含めてロールアップ型M&Aを検討していく。

質問内容 3

ワールドインワーカー社の戦略においては、既存の国内における外国人人材がメインのターゲットとの話だが、当該人材の集客に対する戦略を聞かせてほしい。ぶどう農家を営む知人がいるものの、外国人人材が確保できず苦戦していた。農業領域への参入などの検討も実施しているのか。

回答（回答者：代表取締役社長 藪ノ）

農業領域における特定技能人材の活用については、大きなポテンシャルがある。農業への従事では、高い言語能力等も求められず、ファーストステップとしても適している。ワールドインワーカー社も参入を検討するものの、まずは当社とのシナジー創出を飲食領域にて図りたい。また、特定技能についてもロールアップ型M&Aを検討していく。

以 上